

✠ キリシタンロード ✠

江戸時代、長崎近辺にいた宣教師たちが豊後のキリシタン大名大友宗麟がいた府内(大分市)との間を足繁く通った道、すなわち当時の肥後街道や豊後街道をキリシタン研究者の間でキリシタンロードと呼称する人が増えてきた。実際のルートは定かでないが長崎から島原を通り有明海を渡って玉名市の菊池川河口の高瀬に上陸、川船で菊池まで遡るか徒歩で山鹿から菊池へ、そこから阿蘇外輪山の峠を越えるがそのルートにはいくつかの説がある。いずれにしろ兵戸峠か穴川峠、宿ヶ峰尾峠などの峠を越えて小国に至る。そこから上り下りの山道を歩いて久住から直入(竹田市長湯温泉)を経て大分までかなりの長距離である。もちろん「七つ星」などあるはずもなく苦難のロード(労働?)である。九州の大名たちも参勤交代で同じようなルートを通してさらに江戸まで往復していたのだから恐れ入る。ただしこのキリシタンロードの特徴は沿線に温泉と湧水が多いことである。ヨーロッパから来た宣教師たちは温泉の効用をよく知っていて病人の治療にも活用していたと言われている。特に日本一の炭酸泉とされる長湯温泉はドイツなどの炭酸温泉の泉質と似ていて古くから湯治湯として知られていて、竹田藩主の御殿湯が今も健在である。欧州では古くから温泉療法が有名である。そのような縁で直入町はドイツの温泉町とも姉妹提携している。また宣教師たちは阿蘇の台地から湧く名水を洗礼用の聖水としても重用していたと言われている。

かくして戦国時代からこのルート沿いにはキリシタンが多く住んでいたため、遺跡が多く残っている。豊臣、徳川のキリシタン禁制以後も彼らの多くは隠れキリシタンとなって、表向き仏教徒を装いながら隠れてデウス(天主・キリスト)を拝していた人が多くいたのである。そこで私はこのキリシタンロードを少しでも歩いてみたいと思い、菊池市の歴史資料館「わいふ(隈府)一番館」にキリシタン関連資料の送付をお願いした。たまたま電話で対応してくださったのが館長(川上勇蔵氏)さんで、遺跡巡礼の趣旨を説明すると、場所をよく知っている人の案内がないとタクシーや一人歩いて遺跡を巡るのは無理、自分(館長さん)の非番のときに車で案内してあげるとのこと。願ってもない話である。善は急げと相談の上8月30日と決めた。28日午前浜松教会に行き、午後の新幹線で福岡に直行、夕方久留米のホテルに宿をとった。久留米泊にしたのは前からぜひ訪れたかった福岡県大刀洗町にある今村教会に行くためである。翌29日西鉄久留米から甘木行きに乗り、大堰で下車、無人駅でタクシーも常駐していない駅、歩けば30分以上とのこと、こんな暑さでは熱中症にもなりかねず、タクシー会社に電話して迎えに来てもらうことにした。

カトリック今村教会

この教会は鉄川与助が1913年に建設した赤煉瓦双塔式の国指定重要文化財である。さすがに立派である。戦国時代、今村は大友宗麟の支配下にあり、筑後の領主毛利秀包がキリシタンであったため多くのキリシタンが住んでいた。幕末になって密かに隠れキリシタンを探していた長崎大浦天主堂のフジヤン神父が1867年(慶応3年)今村でも隠れキリシタンの存在を発見、1873年(明治6年)の禁教解除までそのことを隠しながら彼らと連絡を取り合っていたという。禁教解除後大浦から神父が派遣され、千余名が受洗した。その時はまだ教会堂はなく民家の土蔵を礼拝堂にしていた。教会員が増え、第4代司祭の本田保氏が奔走して1913年現在の礼拝堂が完成した。実は祭壇の下はジョアン・又衛門の墓であると言われている。又衛門とは後藤寿庵のことである。彼は戦国時代、岩手県藤沢で藩主の二男として生まれ、故あって長崎に遊学、五島で受洗した後仙台の伊達正宗の家来になって東北のキリスト教布教に尽くした男である。 **今村教会正面と内部**



そのことは前々号のエッセイで紹介した様に禁教後彼は逃亡して行方知れずとされている。寿庵の墓は藤沢町の殉教記念公園の近く宮城県側にもあるがもちろん本当の墓ではない。ところがこの今村では伊達藩追放後、彼はここに逃避してきて村人に尽くしたがキリシタンであることがバレ、ここで殉教、ここに葬られたというのであるが私は又衛門違いであろうと思っている。とにかく教会の近く駅へ行く途中に又衛門の殉教碑があるというのでタクシーを呼び行ってみることにした。教えてもらった場所に行ってみたが探すのに手間どり予定の久留米行き電車に乗りそこなった。電車の本数が少なく小一時間待って久留米にもどり熊本に向かった。なお、今村教会は大阪市中央公会堂、横浜開港資料館、江田島旧海軍兵学校生徒館、同支社大学、熊本大学(旧第五高等学校)などとともに国の重要赤煉瓦建築物として高く評価されている。こんな田舎でありながら教会の会員数はなんと 900 余名! ひょっとしたら日本一かもしれない。会員が交代で毎日説明役を買ってでているのでいつでも内部見学ができる。美しいステンドグラスも一見の価値がある。今年で今村隠れキリシタン発見 150 年になる。

熊本市・加賀山マリア殉教碑

熊本駅西側に花岡山という丘がある。その中腹に加賀山マリアの碑がある。彼女はガラシャの夫細川忠興の重臣加賀山隼人の娘で、小笠原玄也に嫁した。玄也は細川家の家老・小笠原少斎の三男。少斎はガラシャ夫人が関ヶ原の戦いで石田方の人質となったとき屋敷に火をかけて自害した際、彼女の首を介錯した男である。ガラシャに頼まれたとはいえ主君の妻を介錯する心の軋轢に苦しんだであろう。彼もすぐあとを追って自害殉死した。小笠原一家もキリシタンで、忠興は禁教後も彼らをかまっていたが、長崎奉行所に内部告発され、細川藩はやむなく彼ら一家をこの地で処刑せざるを得なくなった。私はその殉教碑を見るべく熊本駅の観光案内所で行き方を聞いた。そのあとついでに立田山公園の細川家四廟を訪ねることにしていた。案内所の人は花岡山へは暑い中坂道を歩いて行くのは大変だからタクシーがよい、車なら駅からそう遠くないからとのアドバイスだった。タクシーに乗り花岡山の殉教碑に行くよう告げて運転手はハイといって走り出した。しばらく走って運転手が「その場所わかりますか」と聞くので全く知らないと答えると運転手は「困ったな、私も知らないので」と地図をだしてみていたが花岡山にはそんなところないですよ、本社に電話して聞いてみるから少し待ってくれと車を止めたがなかなか返事が来ない。待つ間もメーターは上がる。待つこと約 10 分、本社からの返事はあるらしいが場所不明、付近で聞きながら行けとのこと。山の道を上がりながら分岐点ごとにどちらへ行くかうろうろ。通りすがりの人は誰も知らず、やっと一軒の家で聞いて判明した。傍まで車が入らないので、車を待たして写真を撮りに行く。なかなか立派な碑で手入れもされていた。



細川ガラシャ夫人廟 次に立田山自然公園の細川家廟に行くよう告げると、驚くなかれ立田公園も細川家廟にも行ったことないと言ってまた地図を出して調べている。たまりかねて熊本で細川家廟も知らぬとはいつからタクシーの運転をしてるのか聞いたら、実は 3 年前まで長崎の五島で銀行員していた、最近熊本に来てタクシー会社に勤務したが主に市内回りで立田山の方面はまだよく知らないのでという。タクシーにはナビがついていないので地図頼み。とにかく R3 にでて北上するも渋滞、抜け道走ったらというところ知らん道はかえって迷うからとのろのろ R3 を走る。実は昔私は細川家の廟に行ったことがあり、そのときはバスで熊大の近くで降り坂道を登って行った記憶を思い出し、運転手に熊大知っているかと聞くと、熊大なら知っているという



ので、熊大に回り住宅街の中の坂道を登ってもらったが行き止まり。近くの家で聞くと廟まで歩いて10分もかからないとのことでそこでタクシーを待たせてカメラだけ持ち教えてもらった道歩くことにした。観光案内所では廟の前まで車で行けるとのことだったが致し方ない。運転手にメーターを止めて待つよう頼んでみたが、そんなことしたら叱られると拒否される。細川四廟はすぐわかったが四廟だけは幸運にも地震の被害はなく、五輪塔はどっしりと立っていた。この四廟は熊本細川初代藩主の細川忠利(忠興の息子)が祖父母と父母の供養として建立したものである。タクシーにもどり熊大近くの九州ルーテル学院に寄ってもらい、そこでタクシーを降りた。費用は6千円と少々という。高すぎる、どう考えても3千円もかからない距離である。身障者手帳見せて1割引いて端数はまけとくから5400円でいいという。ポケットの財布見たら6千円しかない。千円は菊池までのバス代に必要、そこで「あんたの不勉強で大分無駄足ふんだのだから5千円にまけといてや」と言って渋々OKしてもらったがとんだ貧乏くじを引いてしまった。九州ルーテル学院は九州を代表するプロテスタント系の学校だけあって立派である。中学から大学までの一貫校である。校門で験直しの写真を撮らせてもらい、近くのバス停から菊池行きのバスに乗った。山鹿経由菊池まで小一時間かかる。以前山鹿温泉に宿泊して山鹿の町を見て歩いたが、その時は菊池を素通りして肥後大津に出たため菊池に泊まるのは今回初めてである。菊池も古くから開けた温泉地である。

菊池市について

古くから菊池川沿いに開けた穀倉地帯である。7世紀、大和朝廷が九州防衛の一環として山城・鞠智城を築いたのが歴史の始まりで、今も城塞の跡がいくつか残っている。南北朝時代、菊池氏が後醍醐天皇の皇子で征西将軍の懐良親王を奉じて大宰府に進出、北部九州を南朝方勢力で固め、今の菊池市隈府に親王のご在所を設け、菊池氏の拠点として発展した。ご在所の跡が菊池高校の正門にある。室町から江戸時代になると、北部九州一の穀倉地帯として、採れた米は菊池米として高く評価された。菊池川川口の高瀬(玉名市)から船積みされて江戸や大坂に送られ菊池米は米相場の基準とされた。近くに紅葉の名所・菊池溪谷があるが今回の地震で山崩れがあり、溪谷探勝は閉鎖されている。私は行く前に3軒の小さな温泉旅館に電話したがいずれも満員、聞くと熊本の復興工事で工事関係者の長期縦在者が多いためとのこと。大きな観光ホテルは好きでないが空いていた菊池観光ホテルに泊まることにした。部屋は和室でなくバスタブのついた洋式。大浴場に露天風呂もあるのに部屋のバスタブは余分である。露天は掛け流しの天然温泉だがものすごく熱い。こんなに熱くては心臓に悪い。幸い大浴場の方は誰もいなかったので注水しながら入った。ホテルに熱すぎるのではと言ったら地震後急に湯温が上昇したのだと言う。多分阿蘇のマグマが上昇したのかもしれないが、阿蘇近辺の温泉で温泉が出なくなったところもある由で、湯枯れなくて幸いであるとの宿屋の弁。

菊池周辺のキリシタン遺跡巡り

午前8時
約束通り川上氏がロビーで迎えて下さった。川上氏はH26年に菊池で開催された「第25回全国かくれキリシタン研究会」をコーディネートされた方で、**上木庭キリシタン墓地**山鹿—菊池周辺のキリシタン遺跡にも精通しておられる。同研究会の報告書はH26年度研究会会誌に詳しく紹介されているので詳細は会誌を参照していただくとして今回私が案内していただいた遺跡の中から数か所を極く簡単に紹介する。

案内役を買っていただいた川上さん

一般にキリシタン遺跡は豊臣・徳川の禁教以前と禁教後とでは大きく異なる。前者は領主から公認もしくは黙認されていたため墓碑などにもキリシタンであることを示す例えば✠字印が刻印されていることが多い。大阪府高槻市や茨木市などでも高山右近がいた時代のキリシタン専用墓地が発掘されている。ところが禁教後になると宗門改めとして隠れキリシタ



上木庭キリシタン墓地



ンはキリシタンであることがわからないよう一般墓地に葬られるか誰にも見つからないよう山中に葬られていることが多い。すなわち隠れキリシタンであることを隠して仏教徒を装いながら、しかし墓碑には密かにキリシタンであることを証する印を紛れこませていることが多いと言われる。例えば織部灯籠やマリア観音、蒲鉾型墓碑など、あるいは卍、卐、♡ など模様として彫りこむ手の込んだデザインもある。しかし菊池周辺に散在するキリシタン墓碑の多くは墓碑に刻まれた年号から禁教後のものも多いと言う。それでも多くの墓碑に✕字が公然と刻印されているものも多い。相当年月がたっている上に放置されていたためか多くの墓碑が老化あるいは草木に埋没しているものも多く、私らにはよくわからないが、この地方がもともとキリシタンに理解のある領主の支配地だったせいか監視がそれほど厳しくなかった？ のかもしれない。

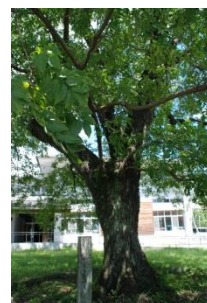
川上氏がまず最初に案内していただいたのが上木庭のキリシタン墓地である。菊池市役所から北東へ車で十数分、田園地帯の丘の上にある。案内がなければとても見つけれない場所である。竹藪が生い茂る中に石臼くらいの石ころがいくつも半ば草むらに埋まっている。すべて墓石である。さらに奥に行くとやや背の高い墓石数個並んでいる。よく見るとこれらには✕字が刻印されている。続いてかつてのキリシタンルートであったろう道端の岩崖に彫られたキリシタンの祠を見てから合志川近くの津留のキリシタン墓碑とその中にある宮本武蔵の高弟・村上某の墓を見る。少し寄り道して民家の庭先でバテレン風スカートをはいた石地蔵を見てから合志川の下流に沿って西へ泗水町の公民館に展示されている西洋風蒲鉾型の墓石を見学した。蒲鉾を寝かせると西洋の墓と分かるので立ててそれとなく和風墓らしくみせていたらしい。そこから西北に車を走らせ七城町にあるキリシタン灯籠を見る。人吉にもあったように火袋に三日月を彫ったものもある。三日月はマリアの象徴である。また火袋の両側に直径 5cm くらいの穴をあけて棒を通して十字架に見立てて礼拝したとも言われる灯籠もある。そこから近い鹿本町に小西行長の供養碑がある。これは行長が関ヶ原で戦死した後、家臣が弟隼人の遺児を密かにこの地にかくまったとの言い伝えがあり、小西—kozai—小材と名を改めたとの話である。この供養碑は今も存続する小材家の墓地にある。さらに同じく鹿本町の観音堂に祭られているマリア観音を見て菊池市内にもどった。昼食後、隈府一番館の資料館内を案内していただき、肥後大津駅まで送っていただいた。川上館長に改めて謝意を表したい。

キリシタンであることを示す灯籠や墓碑 横穴に棒を通し十字架にみたてた？ アロエと IHI の彫刻



上右端:アロエは宣教師が薬草として利用した。IHI はイエズス会の紋章

下左から:バテレン風地蔵、蒲鉾型墓碑、マリア観音、小西行長供養碑



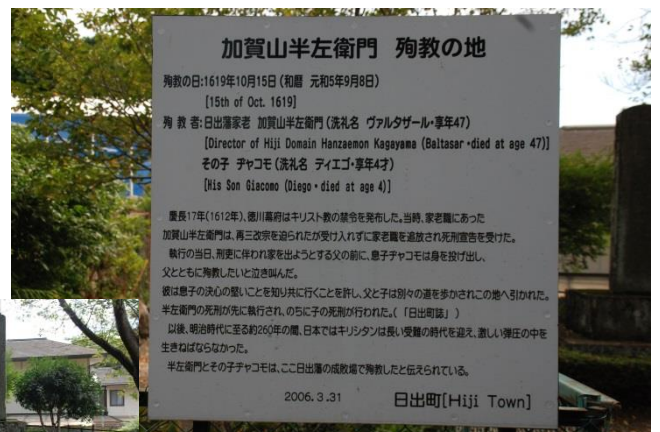
右端の樹は菊池高校にあるチャンチャンモドキという珍木で熊本県指定天然記念物(うるし科)

大分市キリシタン殉教記念公園

地震後豊肥本線不通のためバスで大分に向かう。阿蘇高原は

地震があったとは思えないのどかな風景である。大分駅前東横インに荷をおろし久しぶりに大分の知人と夕食を共にする。翌朝タクシーで鶴崎近くのキリシタン殉教公園に向かう。戦国時代の大友宗麟の館は今の大分城の南東、大分川沿いにあり府内と呼ばれた。ザビエルも府内在住2年間ほど今の古国府あたり？で布教したらしい。宗麟(大友家第21代)がキリシタンになって教会も建てられたため多くのキリシタンが誕生した。宗麟の死後、後を継いで第22代領主になった息子が秀吉の禁教令を受けて多数のキリシタンに棄教を迫り、抵抗した数百名ともいわれる府内のキリシタンを捕縛殺害した。間もなく領主の失政により秀吉から領地召し上げ、ここに400年続いた名門大友氏が滅亡、その後も入城した藩主が目まぐるしく交代する。また府内城も大友時代から今の県庁のある大分城へと移るが、その間一時猿の高崎山にも築城されたこともあり、大分の府内とは別の府として今の「別府」の町が生まれたと言う。今の大分城(府内城)を拡張して立派な城にしたのが関ヶ原で東軍として戦った竹中重利で初代府内藩主とされる。その後徳川の更なる禁教令によってそれまで密かに隠れていたキリシタンの多くが殉教した(1660年)。その処刑地の跡？に元大分市長の上田氏によって「キリシタン殉教記念公園」として整備された。

大分駅に戻り日豊線の日出に向かう。その前に日山の観光マップをもらいに駅の観光案内所に寄った。ニコリと丁寧に対応してくれた案内嬢がなかなかの美人で、しかしどこか日本語のアクセントが違うのでよく見たら地中海系？のような外国人。美人だから言うのではないが「おもてなし」の日本と言いながらまだまだ素っ気ないi-centerが多い。見習うべきである。朝から気分を良くして日山のキリシタン殉教公園にタクシーで向かう。しかしこのタクシーも殉教公園を知らず、地図を見せて目的地に着いた。タクシーを待たせて写真だけ撮る。ここは日出藩家老・加賀山半左衛門親子の殉教地で、日出藩の罪人処刑場跡でもある。半左衛門は熊本花岡山にある石碑の加賀山マリアの親族でマリアの父・隼人の従妹にあたる。罪人とはいえ藩の重臣を処刑する役人としては手荒くできない。藩？の記録には役人が丁重に最後に言い残すことなど尋ねている。「自分の命はデウス(イエス)にささげている、自分の死はイエス様の深きご計画、すぐに処刑せよ」と。そのとき彼の心内は一粒の麦も落ちて死ぬことでやがてそれが多くの実をもたらずと確信していたと思う。しかしそのときまだ4歳の幼児だった息子が、父と共にイエス様のもとに行くのだと父にしがみついて離れず、やむなく父も子を道連れにすることを許したという。かくして父子共々役人の刃を受けて殉教したとのことである。駅に戻り小倉に出て久しぶりに小倉城の庭園を見学し、キリシタン巡礼の旅を終えた。今回はずっと好天に恵まれ幸いであった。



上は大分市キリシタン殉教記念公園記念碑

右は加賀山半左衛門父子の殉教碑(日出町)

(註) 前頁の墓碑のアロエの彫刻は大変珍しくこれまで聞いたことはなく国内唯一ではないかと思います。

